

平成26年7月14日(月)

老球の細道35

凄いものを生で見よう

会津バスケットボール協会理事長 室井 富仁

数年前に隣の新潟県で国体が開催されたことがある。せっかくお隣の新潟で国体が開催されるので当時のB高校バスケットボール部員全員に見せたかった。しかし、残念ながら学校行事が重なり、試験前ということもありチームとして大会を観戦することは不可能となった。それならばあとは個人で行くしかないということで、部活動時に新潟国体の情報を生徒達に知らせた。そしたら、コーチの意をくんでか、心底国体を観戦したかったのかは定かではないが、新潟まで行った者が数名いた。数名でもうれしかった。

試験前ということもあり、なかなか厳しい状況だと予想していたが、やはりどこの学校にも規格はずれの凄い生徒がいる。観戦に行った生徒は例外なく「凄かった!」と感想を述べていた。当然である。今まで会津、福島県レベルのバスケットボールしか見たことのない生徒達である。全国レベルがいかに凄いかを身をもって知ったことだろう。全国には凄い奴がたくさんいることをわかっただけでも有意義な勉強をしたと思う。

会津の人は(私もそうであるが)、とにかく判断基準が会津で何番。B高校時代の中学生を対象にした体験入学においても、目標の基準は「会津で一番の高校になろう」だった。「日本で一番の高校になろう」という発想は出てこない。自分の想いや夢はお金も元手もかからないのに、なぜか超一流を最初からあきらめている。教員時代の授業時において、ある生徒に「今年はがんばるぞ!」とバスケットボールにおける私の気合いを示した。そしたら、その生徒の反応は「先生!今年はC高校(会津地区)に必ず勝ってください」だった。私は全国へ向けての気合いのつもりだったが、生徒の意識はどこまでも会津レベルである。

今までコーチしたすべての学校で最初にやることは意識改革であった。小さな、狭い地区内でなんぼのものしか考えていない生徒達に全国レベル、世界レベルのすごいバスケットボールを見せることだった。今まで、全国インターハイ、ウインターカップ、インターカレッジ(大学生の全国大会)、JBL、WJBL、オールジャパンなどを観戦させた。アメリカ遠征も実施してきた。日本国内、ドイツから超一流のコーチを招聘して指導も受けさせた。現在の実力が二流、三流でも、目指すは超一流であり続ける証のために。その結果、例外なく生徒達の意識は変わり、目の色も変わった。その後のチーム練習のモチベーションも上がり、個人練習にも意欲を見せるようになった。そして、バスケットのみならず、勉強、仕事においても常に高い目標、広い視野、大きな心で取り組んでくれるようになった。

凄いものにたくさん出会って、感動して、自分の未熟さを思い知り、さらに高い目標を設定して決意を固める。そんな毎日の積み重ねが生徒達、子ども達を眼のキラキラ輝く、器の大きい人間に育てていくのだと信じている。バスケットボールの経験がそんなことに一役も二役も担ってくれればコーチ冥利に尽きる。